

応答詞疑問表現の諸相

中島 悦子

1. はじめに

応答詞疑問表現とは、例えば、

- | | |
|---------------------|----------------------|
| (1) お客さんはこれ出ないんですね。 | [04L・50f→04F・40不明・会] |
| はい↑ | [04F・40不明→04L・50f・会] |
| お客さんは。 | [04L・50f→04F・40不明・会] |

の「はい↑」のように、いわゆる応答詞に上昇イントネーション(↑)がついた形式をいう。この応答詞疑問表現について、本稿では以下のことについて分析する。

① 応答詞疑問表現の種類と出現実態

② 応答詞疑問表現と場面差・性差・世代差

①の種類については、中島(1997)の分類に基づく。②については、出現がフォーマル場面(会議・打合せ・相談)かインフォーマル場面(雑談)かといった場面差、発話者が男性か女性かといった性差、発話者の年齢が若年世代(20～30代)か中高年世代(40～50代)かといった世代差について検証する。①と②の数値は表1にまとめて示す。応答詞疑問表現は先行する発話との関連でさまざまな働きをすることが分かった。この応答詞疑問表現の機能は②とも関係するので必要に応じて取り上げるが、かなり大きなテーマであるため、詳細な分析については次稿に回す。

調査資料は前稿と同じく「職場における女性の話しことば」(1994)を使用した。これは、調査協力者が女性であるための男女の発話数のアンバランスおよび世代の発話数の偏りという問題はあるが、自然な談話の大量の資料として貴重なものである。

2. 応答詞疑問表現の種類と出現実態

談話資料の総発話数11,421例中、応答詞疑問表現の出現総数は169例あり、それらを次のように分類した。

表1 応答詞疑問表現—種類および場面差・性差・世代差—

種類	場面		発話者性		発話者の世代			計	%							
①「はい↑」系	インフォ	5	フォ	3	f	6	m	2	若年	4	中高年	4		8	4.7	
はい↑	インフォ	3	フォ	3	f	4	m	2	若年	2	中高年	4		6	3.5	
は↑	インフォ	1	フォ	0	f	1	m	0	若年	1	中高年	0		1	0.6	
はあ↑	インフォ	1	フォ	0	f	1	m	0	若年	1	中高年	0		1	0.6	
②「え(え)↑」系	インフォ	60	フォ	14	f	54	m	20	若年	50	中高年	21	不明	3	74	43.8
え↑	インフォ	28	フォ	8	f	23	m	13	若年	21	中高年	13	不明	2	36	21.3
えっ↑	インフォ	25	フォ	5	f	25	m	5	若年	23	中高年	6	不明	1	30	17.7
ええ↑	インフォ	3	フォ	1	f	2	m	2	若年	3	中高年	1		4	2.4	
ええっ↑	インフォ	1	フォ	0	f	1	m	0	若年	1	中高年	0		1	0.6	
ええー↑	インフォ	1	フォ	0	f	1	m	0	若年	1	中高年	0		1	0.6	
えー↑	インフォ	1	フォ	0	f	1	m	0	若年	1	中高年	0		1	0.6	
えーっ↑	インフォ	1	フォ	0	f	1	m	0	若年	0	中高年	1		1	0.6	
③「(う)ん↑」系	インフォ	33	フォ	20	f	40	m	13	若年	24	中高年	28	不明	1	53	31.3
ん↑	インフォ	17	フォ	17	f	25	m	9	若年	15	中高年	18	不明	1	34	20.1
うん↑	インフォ	7	フォ	3	f	7	m	3	若年	5	中高年	5		10	5.9	
うーん↑	インフォ	1	フォ	0	f	1	m	0	若年	1	中高年	0		1	0.6	
ううん↑	インフォ	2	フォ	0	f	2	m	0	若年	1	中高年	1		2	1.2	
ふーん↑	インフォ	6	フォ	0	f	5	m	1	若年	2	中高年	4		6	3.5	
④「あ(ん)↑」系	インフォ	4	フォ	2	f	4	m	2	若年	2	中高年	4		6	3.6	
あ↑	インフォ	2	フォ	1	f	2	m	1	若年	1	中高年	2		3	1.8	
あん↑	インフォ	1	フォ	1	f	1	m	1	若年	0	中高年	2		2	1.2	
あっ↑	インフォ	1	フォ	0	f	1	m	0	若年	1	中高年	0		1	0.6	
⑤「そう↑」系	インフォ	5	フォ	0	f	5	m	0	若年	3	中高年	2		5	3.0	
そう↑	インフォ	2	フォ	0	f	2	m	0	若年	1	中高年	1		2	1.2	
そうお↑	インフォ	1	フォ	0	f	1	m	0	若年	0	中高年	1		1	0.6	
そーおー↑	インフォ	2	フォ	0	f	2	m	0	若年	2	中高年	0		2	1.2	
⑥「あれ↑」系	インフォ	0	フォ	2	f	2	m	0	若年	1	中高年	1		2	1.2	
あれ↑	インフォ	0	フォ	1	f	1	m	0	若年	1	中高年	0		1	0.6	
あれれ↑	インフォ	0	フォ	1	f	1	m	0	若年	0	中高年	1		1	0.6	
⑦「なあ↑」系	インフォ	1	フォ	0	f	0	m	1	若年	1	中高年	0		1	0.6	
⑧「ね(え)↑」系	インフォ	9	フォ	11	f	16	m	4	若年	14	中高年	6		20	11.8	
ね↑	インフォ	7	フォ	3	f	8	m	2	若年	6	中高年	4		10	5.9	
ねえ↑	インフォ	1	フォ	8	f	8	m	1	若年	8	中高年	1		9	5.3	
ねー↑	インフォ	1	フォ	0	f	0	m	1	若年	0	中高年	1		1	0.6	
計	インフォ	117	フォ	52	f	127	m	42	若年	99	中高年	66	不明	4	169	100

①「はい↑」「は↑」「はあ↑」の3形で、これらを「はい↑」系と呼ぶ。

②「え↑」「えっ↑」「ええ↑」「ええっ↑」「ええーっ↑」「えー↑」「えーっ↑」の7形で、これらを「え(え)↑」系と呼ぶ。

③「ん↑」「うん↑」「うーん↑」「ううん↑」「ふーん↑」の5形で、これらを「(う)ん↑」系と呼ぶ。

④「あ↑」「あっ↑」「あん↑」の3形で、「あ(ん)↑」系と呼ぶ。

⑤「そう↑」「そうお↑」「そーおー↑」の3形で、「そう↑」系と呼ぶ。

⑥「あれ↑」「あれれ↑」の2形で、「あれ↑」系と呼ぶ。

⑦「なあ↑」は「なあ↑」系と呼ぶ。

⑧「ね↑」「ねえ↑」「ねー↑」の3形で、「ね(え)↑」系と呼ぶ。

「はい↑」系「え(え)↑」系が丁寧体、「(う)ん↑」系「あ(ん)↑」系「そう↑」系「なあ↑」系が非丁寧体、「ね(え)↑」系「あれ↑」系は中立体である。丁寧体の方がやや出現率が高い。その中でも「え(え)↑」系が第1位で、これが標準的な応答詞疑問表現であることを裏付けているが、最丁寧体の「はい↑」系は極めて少ない。他方、非丁寧体の「(う)ん↑」系は第2位である。職場では最丁寧体の「はい↑」系より、丁寧体の「え(え)↑」系、非丁寧体の「(う)ん↑」系の使用が多いことが示される。

さらに、応答詞疑問表現は談話資料の中では主として肯定応答詞に上昇イントネーション(↑)がついた形式で現れ、否定応答詞に上昇イントネーション(↑)がついた形式は、殆どなく、僅かに「ううん↑」2例だけである。その否定応答詞疑問表現も語用論的には後掲の例(15)のように肯定を意味するものとして使われている。つまり、応答詞疑問表現は肯定応答詞に上昇イントネーション(↑)がついた形式が無標であるということである。肯定応答詞疑問表現の多用は、職場の対人関係においてできるだけ他者との関係を円滑に保とうとする意識の現れととらえることができるのである。このような出現実態は、奥津(1989)の「日本語の日常会話においては、肯定的な応答が多く、否定的な応答は極めて少ない。」という「肯定応答無標の仮説」を裏付けるものである。

3. 応答詞疑問表現と場面差・性差・世代差

3. 1 「はい↑」系

最丁寧体の「はい↑」系はややインフォーマル場面での使用が多い。特に「は↑」「はあ↑」はインフォーマル場面のみの出現である。男女別では女性の方に多いがこれは資料の性質によるものであろう。世代別では若年、中高年とも半々の出現率である。なお用例末の[]内は、例えば(2)では13Gは発話者番号、50は50代、mは男(fは女)、打は打合せ(会は会議、雑は雑談等)の場面、→は話し手から聞き手へということを示す。

- (2) →合わないか。← [13G・50m→13A・20f・打]
あ、トータルは一。 [13A・20f→13G・50m・打]
じゃーどうする、直接折衝しちゃう↑ [13G・50m→13A・20f・打]
はい↑ [13A・20f→13G・50m・打]
直接折衝しちゃう↑ [13G・50m→13A・20f・打]
(笑いながら) また、★大変なことってる。 [13A・20f→13G・50m・打]

(2)の「はい↑」は、先行の相手の「直接折衝しちゃう↑」という発話の意味がよく分からなかったために聞き返したものである。この「はい↑」という聞き返しに対して相手は再度同じ発話「直接折衝しちゃう↑」を繰り返している。相手に聞き返すという言語行動は自分がよく聞いていなかったり、相手の発話が意味不明だったりする場合に行われることが多く、ときに相手との人間関係を損なうこともあるわけで、フォーマルな場面での使用は遠慮した方がいいこともある。特に「はい↑」は発音の明確さから相手に与える印象も大きい。フォーマル場面はもとより、全総数の中でも「はい↑」系の使用が極めて低率なのはこうした理由によるのではないか。

3. 2 「え(え)↑」系

丁寧体の「え(え)↑」系はインフォーマル場面の方に圧倒的に多い。中でも出現数の多い「え↑」「えっ↑」はインフォーマル場面に出現が集中している。その他「ええ↑」「ええっ↑」「ええー↑」「えー↑」「えーっ↑」等も出現数は非常に少ないが、大部分がインフォーマル場面の出現である。「え(え)↑」系も、「はい↑」系と同様丁寧体であるにもかかわらずフォーマル

場面の出現が少ないというのは、その発音の明確さからよりその働きが強調され、相手に与える印象が強くなるためではないか。フォーマル場面ではこうした丁寧体の応答詞疑問表現は使用が避けられるようだ。また、男女別では女性の方に、世代別では若年世代に多く使用されている。最も出現数が多い「え↑」から分析する。

- | | |
|----------------------------------|---------------------|
| (3) 電話してやってよ、あ、★なんかね。 | [01A・20f→01C・30m・雑] |
| →ゆってみただけなんだから←いいんだよ。 | [01A・30f→01C・30m・雑] |
| <u>え↑</u> | [01C・30m→01A・20f・雑] |
| ねえ、電話、電話してやって、★でもほんと暇こいてんの、今、特に。 | |
| | [01A・20f→01C・30m・雑] |
| →違う、俺、俺ね。← | [01C・30m→01A・20f・雑] |
| <u>え↑</u> | [01C・30m→01A・20f・雑] |
| <u>ん↑</u> | [01A・20f→01C・30m・雑] |
| なんで。 | [01A・20f→01C・30m・雑] |
| <u>え↑</u> | [01C・30m→01A・20f・雑] |
| きつ、きついな。 | [01C・30m→01A・20f・雑] |

(3)の初めの「え↑」は、先行の「電話してやってよ」という相手の発話の後に発せられ、直後に「電話してやって」という相手の同一発話が繰り返されるという聞き返しの働きをするものである。二番目の「え↑」は、「違う、俺、俺ね」という発話者自身のことばに続いて発せられた自分自身への問いかけである。次の「ん↑」は「なんで↑」の意味で相手に問いかけたものである。三番目の「え↑」は相手の発話に対する驚きを表したものである。「え↑」はこのように一談話の中で種々の働きをしていることが分かる。

次いで出現数の多い「えっ↑」も、やはり談話の中で種々の働きをしている。例えば、(4)は聞き返し、(5)は驚きを表すものである。

- | | |
|--------------------------------|---------------------|
| (4) →東京←ポンパースの[名前]ってゆうのは↑〈笑い〉 | [15A・30f→15C・30f・雑] |
| <u>えっ↑</u> 、東京ポンタ↑ | [15C・30f→15A・30f・雑] |
| 〈笑いながら〉東京ポンパース。 | [15A・30f→15C・30f・雑] |
| (5) →[あだ名]←、だって、[あだ名]のことあんまりー。 | [13C・20f→13A・20f・雑] |
| なに↑ | [13B・20f→13C・20f・雑] |
| <u>えっ↑</u> | [13A・20f→13C・20f・雑] |
| [あだ名]のほうがだめなのー↑ | [13A・20f→13C・20f・雑] |
| だって、話合うじゃん、[あだ名]って。 | [13A・20f→13C・20f・雑] |

やー、話だけは合うけどー、★やっぱり [名字] くん。[13C・20f→13A・20f・雑]

その他「ええ↑」「ええっ↑」「えー↑」「えーっ↑」は出現数が非常に少ない。(6)の「ええ↑」は相手の発話「終わると」が「ええ↑」の前後にあることから聞き返し、(7)の「ええっ↑」は「ええっ↑、なあに↑」といった意味で相手への問いかけ、(8)の「えーっ↑」は驚きを表すものである。

- (6) いやね、終わるとほっとしますよ、やっぱり、★正直いって。

[10C・30m→10B・40m・雑]

→ええ↑←

[10B・40m→10C・30m・雑]

終わるとね。

[10C・30m→10B・40m・雑]

- (7) うーん、でも、どの、その月額ってゆうのは一、30日じゃないんだ。

[17A・30f→多数・雑]

あー、[名字+名前]さん。

[17B・30f→17A・30f・雑]

ええっ↑

[17A・30f→17B・30f・雑]

ここもそうですよ。

[17B・30f→17A・30f・雑]

あああー、ほんとだー。〈独り言〉

[17A・30f→無し・雑]

- (8) 何人ぐらい###↑

[10B・30m→18C・20f・雑]

きのうは一20人ぐらいいたようですねえ。

[18C・20f→10B・30m・雑]

えーっ↑

[18A・40f→18C・20f・雑]

もう、気がついたころにはもう床が抜けそうでしたよ、うち。

[18C・20f→不明・雑]

3. 3 「(う)ん↑」系

非丁寧体の「(う)ん↑」系は、インフォーマル場面とフォーマル場面の出現が6対4の割合となり、興味深い結果を示している。非丁寧体はその大部分がインフォーマル場面に出現するだろうという予想を裏切って、丁寧体よりも高率でフォーマル場面に出現している。また、世代別では若年層よりも中高年層の使用の方がやや多い。男女別では資料の性質にもよるが女性の方に多い。つまり、一般に丁寧な形式が好まれると考えられるフォーマル場面や中高年層、女性に、「(う)ん↑」系が意外にも多用されているのである。

まず、最も多用されている「ん↑」から見ていく。「ん↑」はインフォーマル場面とフォーマル場面での使用が半々の割合である。フォーマル場面で「はい↑」「え(え)↑」の丁寧体より、「ん↑」という非丁寧体の出現率の方

が高い、という事実は応答詞疑問表現の働きに関係すると考えられる。「はい↑」で聞き返すより、「ん↑」で聞き返す方が相手にソフトな印象を与えやすいのではないかと考えられるのである。

- (9) →合同← [08I・30m→08A・50f・打]
ん↑ [08A・50f→08I・30m・打]
 合同で、ですよ↑ [08I・30m→08A・50f・打]

- (10) あの一、きょう、あの一、(うん inf(女))委員会もあるんでー。
 [10E・20f→10A・40f・打]
ん↑ [10A・40f→10E・20f・打]
 4時ぐらいに一、(うん inf(女))あの一★、###くるんですよ。

- [10E・20f→10A・40f・打]
 (11) おごって↑ [01A・20f→01C・30m・雑]
ん↑ [01C・30m→01A・20f・雑]
 ねえ、社販っていつからだっけ。 [01A・20f→01C・30m・雑]

- (12) きょうどうかなー。 [08A・50f→不明・相談]
 きょう、練習一、ん↑ [08A・50f→不明・相談]
 うーん、いいわよ。 [08A・50f→不明・相談]

(9)の「ん↑」は発話者が先行の相手の発話を聞き返すために用いたもので、聞き返しの後再び相手の同一発話が繰り返されている。(10)の「ん↑」は「委員会↑」という問いかけの意味を表す「名詞↑」形式の代わりに用いたもの、(11)の「ん↑」は発話者が相手の「おごって↑」という発話に驚いて発したもの、(12)の「ん↑」は相手の発話に対するものではなく、自分自身に投げかけたものである。このように「ん↑」も「はい↑」「え(え)↑」と同様、談話の中で聞き返し、問いかけ、驚き、自答等の働きをしている。

「うん↑」形式は数は少ないが、フォーマル場面よりもインフォーマル場面の方に、また女性の方に使われる傾向があるが、世代別では若年と中高年の差はない。「うん↑」も次の(13)が示すように聞き返し、(14)が示すように問いかけに用いられている。

- (13) テープが回ってるからいいないんです。 [07E・30f→07A・40f・雑]
 〈笑い〉 うん↑ [07A・40f→07C・30f・雑]
 テープが回ってるからいいない###。 [07E・30f→07A・40f・雑]
 (14) それがこれに当たります。 [04L・50f→04A・50f・指導]
うん↑ 〈間〉 [04A・50f→04L・50f・指導]

これ↑

[04A・50f→04L・50f・指導]

応答詞疑問表現は肯定応答詞に上昇イントネーション(↑)がついたものを典型とするが、唯一否定応答詞に上昇イントネーションがついた「ううん↑」が資料に現れている。

- | | |
|------------------------|---------------------|
| (15) ###チョコおいしいなー。(笑い) | [19B・30f→19A・40f・雑] |
| で、これとこれはどう違うのお↑ | [19B・30f→19A・40f・雑] |
| おんなじな#。 | [不明→不明・雑] |
| わかんない。 | [19A・40f→19B・30f・雑] |
| あー、ごめんね↑ | [19A・40f→19B・30f・雑] |
| <u>ううん↑</u> | [19B・30f→19A・40f・雑] |
| わかんない。 | [19A・40f→19B・30f・雑] |
| どう違ったか。 | [19A・40f→19B・30f・雑] |

この「ううん↑」は、相手の「あ、ごめんね」という謝罪に対して「ううん↑、いいわよ」といった意味でその謝罪を否定している。相手の「わかんない」という発話が謝罪する必要のないことであるとして認めているのである。否定応答詞疑問表現も、実際は肯定の意味合いとして使われている。

「ふーん↑」はインフォーマル場面の方に使われており、また女性や中年の方に多い。「ふーん↑」は他の「(う)ん↑」系とはその働きが異なり、(16)のように先行の相手の発話に感心した時のあいづちとして使われている。

- | | |
|---|---------------------|
| (16) コーヒーなんかもやっぱりすごいお砂(さ)、あの一、お砂糖入れて飲むよ、★飲んでる↑、イギリスとか#。 | [18A・40f→18C・20f・雑] |
| →入れますよー、ベッチョリ。← | [18C・20f→18A・40f・雑] |
| <u>ふーん↑</u> | [18A・40f→18C・20f・雑] |
| なんか、わたし入れないんですけど(うんinf(女))、なんかみんなあこがれてましたよ↑ | [18C・20f→18A・40f・雑] |

3. 4 「あ(ん)↑」系

非丁寧体「あ(ん)↑」系は「(う)ん↑」系より更に丁寧度が低いものであるが、インフォーマル場面だけでなくフォーマル場面にも使われ、男性より女性に、若年世代より中高年世代の方に使用される傾向がある。(17)の「あ↑」、(18)の「あん↑」は先行発話に対する聞き返し、(19)の「あっ↑」は先行発話に対する聞き返しと驚きの意味を含むものである。

- (17) 〈笑いながら〉せんせ、2、3 日見に行かなかったの↑ [09A・30f→09F・50m・雑]
あ↑ [09F・50m→09A・30f・雑]
 〈笑いながら〉 2、3 日見に★行かなかった。 [09A・30f→09F・50m・雑]
- (18) 普通（ふつ）は食べに行くんですか↑ [05F・30m→05A・40f・雑]
あん↑ [05A・40f→05F・30m・雑]
 普通（ふつ）は食べに行くんですか↑ [05F・30m→05A・40f・雑]
- (19) だれと↑ [13D・20f→13A・20f・雑]
 伊代ちゃん。 [13A・20f→13D・20f・雑]
あっ↑ [13D・20f→13A・20f・雑]
 伊代ちゃん。 [13A・20f→13D・20f・雑]

3. 5 「そう↑」系

「そう↑」系は丁寧体「そうですか↑」の「ですか」を省略したもので、丁寧度の低さからインフォーマル場面にしか出現していない。(20)の「そう↑」は「ああ、ほんとう↑」の意味で、相手の発話を肯定するあいづちとして使われている。

- (20) ちょうどいいくらいね、大きさも。 [08I・30m→08A・50f・雑]
 あのこども達に。 [08I・30m→08A・50f・雑]
あーそう↑ [08A・50f→08I・30m・雑]
 形といい。 [08I・30m→08A・50f・雑]
 あ、うんうんうんうん。 [08A・50f→08I・30m・雑]

なお、「あれ↑」系「なあ↑」系「ね（え）↑」系は純粋な応答詞疑問表現ではないので、省略する。

4. おわりに

以上、職場では丁寧体の「え（え）↑」系と非丁寧体の「（う）ん↑」系が多用され、特に「え（え）↑」系が第1位で、これが標準的な応答詞疑問表現であることを裏付けている。

場面差では、丁寧体の「はい↑」や「え（え）↑」はインフォーマル場面に多用され、フォーマル場面ではあまり使用されていない。それに対して、非丁寧体の「（う）ん↑」はインフォーマル場面と同様フォーマル場面での使用もかなり多い。このような出現実態には、丁寧体か非丁寧体かという文体よ

りも、談話中の応答詞疑問表現の働きが大きく関与していると考えられる。即ち、聞き返し、問いかけ（疑念）、驚き等は対人関係においてあまり好ましい言語行動ではない。特に、フォーマル場面では相手に聞き返すという言語行動は相手の発話をよく聞いていなかったり、理解できなかったというサインを送ることである。従って、フォーマル場面で「ん↑」の使用頻度が高いということは、「はい↑」という語形ではっきりと聞き返すより、「ん↑」というあいまいな形で聞き返した方がやや弱く聞こえるからであろうと考えられる。これも我々が他者との関係を円滑にかつ友好的に保とうとする意識の現れと見ることができる。「ん↑」のこのような実際的な効果は、女性や中高年者の方に「ん↑」の使用が比較的多いという傾向にも示される。

参考・引用文献

- 遠藤織枝1994「会議中の応答詞一性差の見られない「うん」の使用一」『職場における女性の話しことば一自然談話録音資料に基づいて一』財団法人東京女性財団1993年度助成研究報告書
- 奥津敬一郎1988 「「はい」と「いいえ」の機能」井上和子編『日本語の普遍性と個別性に関する理論的及び実証的研究』研究報告(4) 昭和62年度科学研究費補助金特別推進研究(1)
- 〃 1989 「応答詞「はい」と「いいえ」の機能」『日本語学』 8月号 明治書院
- 現代日本語研究会1994『職場における女性の話しことば一自然談話録音資料に基づいて一』財団法人東京女性財団1993年度助成研究報告書
- 〃 編1997『女性のことば・職場編』ひつじ書房
- 中島悦子1997 「疑問表現の様相」『女性のことば・職場編』現代日本語研究会編 ひつじ書房